



### 3. 活動内容

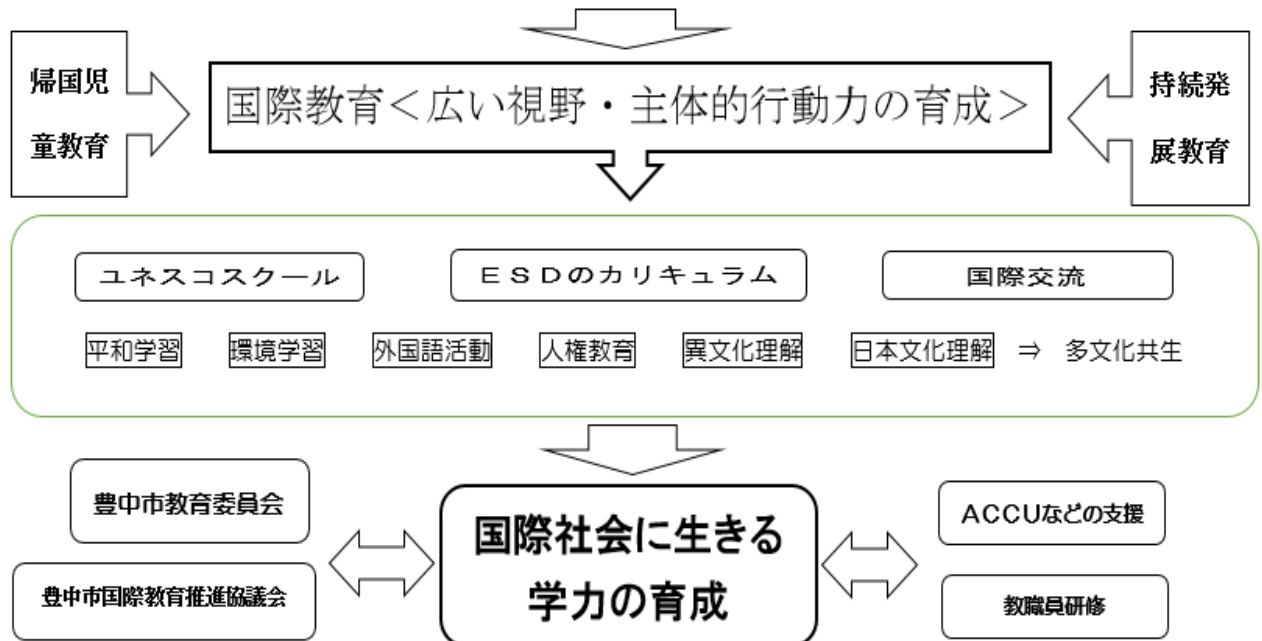
(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 上野小学校の国際教育＜2016年度（平成28年度）＞

【地域】戦後開発された町閑静な住宅地。府立高校・私立中等学校・私立幼稚園2校ある文教地区。公民館をはじめ各種団体の活動が盛ん。

【保護者】教育熱心・転勤家族が多い・学校を大切にする・学校教育への関心が高い・PTA活動が盛ん

【児童の実態】とても優しく素直・学力は比較的高い学力に差がある・意欲だが、筋道を立てて自分の考えを説明したり論理的に考えたりする力が弱い。



国際教育で育成したい態度や能力

- ① 異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力
- ② 自らの歴史、伝統文化に立脚した自己の確立
- ③ 自らの考えや意見を発信し、具体的に行動する態度・能力

本校は国際教育を軸にして研究を進めている。6年間を通して系統的に自らの歴史・伝統文化を学び、多様な人々と触れ合うことにより異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力、また各研究推進委員会と連携し、全学年で自らの考えや意見を発信して具体的に行動する態度・能力の育成に努めている。

今年度も児童の実態にもとづいて、各学年が教科横断的にESDカリキュラムを改善し、広い視野と主体的な行動力の育成に取り組んだ。ESD（持続可能な開発のための教育）は、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。ますますグローバル化していく未来を生きていく子ども達には、多様な人々を受容・共生する力、課題を解決するために探求する力が必要であり、世界のために、地域のために、思いやりを持って主体的に行動する力が求められる。そうした背景を踏まえ、各推進委員会と連携しながら、学校全体でESDカリキュラムをPDCAサイクルでより良いものへと今後も改善していく必要がある。

また、今年もAETを1ヶ月間迎えた。AETが学校に常駐することで、児童が気軽に楽しくいつでもAETと接することができ、英語を身につけようとする意欲が高まるとともに、異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力の育成に役立った。国際児童間交流とし

ては、韓国・巨済市・菊山初等学校やアメリカ・サンマテオ市・パークサイド小学校と作品交流を行った。

また、環境問題についての取り組みをドイツと日本で比較して、ドイツのミュンヘン日本人国際学校と意見交換を行った。

#### ◇ 2016年度 各学年国際教育年間計画

1年	テーマ ねらい 内容	だいすき にほんのおはなし・うた・あそび お話やうた、遊び等、日本に昔から伝わるものを知り、親しむ。 (1) 民話(絵本)を通して、日本に古くから伝わるものについて知る。 (2) 七夕かざり・折り紙等日本に古くから伝わる文化について知り、体験しながら 自国文化の理解を深める。
2年	テーマ ねらい 内容	知りたいな 知らせたいな 世界のこと (1) 日本の神話や伝承話を通して「伝統的な言語文化」に親しむ。 (2) 帰国保護者会の人から、いろいろな国のことを聞く。 「いろいろな国を知ろう」では、帰国保護者会などの聞き取り学習を実施し、調べ学習をする。それをまとめて学年発表会を行う。(イギリス・シンガポール・中国・アメリカ・タイ)
3年	テーマ ねらい 内容	やさしい町 上野 ～まちがすき、人がすき～ 日本や世界のユニバーサルデザイン事情について知り、だれにとっても暮らしやすいまちについて考える。 (1) 自分たちの住んでいる所のいいところを探す。 (2) 日本や他国のユニバーサルデザインについて 帰国保護者会への聞き取り学習 (3) 外国語体験
4年	テーマ 内容	広げよう！エコライフ (1) ゴミについて調べよう！ (2) 水について調べよう！ (3) 身近な環境について考えよう！ (4) 世界の環境について学ぼう！
5年	テーマ ねらい 内容	生命を支える食 自分たちの食べているものは、多くの人やものなどが関わっていることを知り、食物は生命のつながりの中で生産されていることについて考える。地域で食物を生産し、地域の食材を消費することの良さを学び、生命を支える食について、学んだことを発信する。 (1) 主食である米について知ろう。 (2) 自分たちの食生活を見直そう。 (3) 生命を支える食について調べよう、考えよう。 (4) 生命を支える食について学んだことを発信しよう。
6年	テーマ ねらい 内容	見つめよう日本、広げよう世界へ 平和学習を通して、戦争の悲惨さを知り、いのちの尊さについて考える。また、世界の子どもたちの現状・課題及びそれらに対する取り組みを調べることを通して、世界の諸問題への関心を高め、理解を深める。 (1) 修学旅行での学び(事前学習・資料館見学・平和記念公園見学・語り部さんの話など) (2) 調べ学習「伝えよう 平和への思い」(学年発表会) (3) 調べ学習「世界の子どもたちは 今」(新聞作り)

## ◇ ユネスコスクール／国内・国際交流事業

本校は2009年6月に豊中市で初めてユネスコスクールに加盟した。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校であり、世界180以上の国・地域で約10,000校以上のユネスコスクールがある。日本の加盟校は2015年4月現在、900校を超える。豊中市内においては、小学校では4校、中学校では3校が加盟している。

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、加盟校増加に取り組んでいる。ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳される。2014年には、理解の促進を目指し、親しみやすく、覚えやすい愛称として「今日よりいいアースへの学び」が選定された。つまり、本校はユネスコスクール加盟校として、ESDの視点で教育を進めている。具体的には、今、世界が直面している環境、防災、貧困、人権、多文化共生、平和、開発、といった様々な問題が遠い世界で起きていることではなく、自分の生活に関係していることを意識づけることに力点をおき、地球規模の持続可能性に関わる問題を児童自らが自身の問題として捉え、次の世代、さらに次の世代へとよりよい社会を築いていけるように、身近なところから取り組む教育を進めている。

今年も、ESDの推進を目的として、金沢大学で第8回ユネスコスクール全国大会が開催された。大会では、全国でユネスコ加盟校が増えている一方で、各校にいるユネスコ担当者（管理職を含む推進の担い手）の人事異動による校内の引き継ぎが課題として挙げられた。教職員の共通理解をいかに持続していくかが、学校教育におけるESDの推進の鍵の一つであることが述べられた。

本校では、広い視野と主体的な行動力を育むため、国内・国際交流事業を通して、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んだ。また、帰国児童など異文化を背景にもつ児童をはじめとして、全ての児童が尊重されるような学校体制を目指した。

### (1) ねらい

- ① 広い視野と主体的な行動力を育成するため、日本および世界各地の子ども達と交流し、その国や地域の文化を知るとともに日本文化等を発信する。
- ② ESDなどの学習課題や教科学習を交流先の児童と連携して取り組む。
- ③ 異なる言語・文化環境の人々とコミュニケーションを図ろうとする意欲をもつ。
- ④ 教材や授業方法等を交流することで、本校教育の一層の深化を図る。

### (3) 国内・国外交流先や交流内容



- ① 韓国・巨済市・菊山初等学校(ユネスコスクール加盟校、2010.8.27.フレンドシップ提携校)  
菊山初等学校から、韓国の伝統文化や遊びを紹介する作品が送られた。
- ② アメリカ・サンマテオ市・パークサイド小学校(2012.5.フレンドシップ提携校)  
本校の1年生がこいのぼりを、2年生がちぎり絵の作品を行った。
- ③ 環境問題について、ミュンヘン日本人国際学校と新聞やポスターを送り合い意見交換をした。本校の4年生からは、ドイツと日本の環境問題への取り組みの相違点や類似点について考えたことをはがき新聞に書いて送り、ドイツからも感想が寄せられた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）